

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520582

研究課題名(和文) 国民的歴史学運動の京都地域における展開過程に関する研究

研究課題名(英文) A Study of Development Process of the National History Movement, "Kokuminteki Rekishigaku," in Kyoto Areas

研究代表者

田中 聡(TANAKA SATOSHI)

立命館大学・文学部・講師

研究者番号：10368011

研究成果の概要(和文):

本研究は、1950年代に全国各地で展開された国民的歴史学運動の、京都地域(京都市及び周辺地域)における展開過程や、教育現場・文化行政などへの影響を明らかにするものである。京都民科歴史部会・京都教職員組合・奥丹後地方教職員組合の資料の調査・検討、関係者の聴き取り調査を行い、1950年代当時の状況を知り、各団体の所蔵資料目録を作成した。また紙芝居「祇園祭」(1952)の再現上演を行い、これらの背景や影響を分析した。

研究成果の概要(英文):

This study clarify influence on educational front / cultural administration in the development process of the National History Movement, "Kokuminteki Rekishigaku", developed in each place of Japan in 1950's., in Kyoto area (Kyoto-shi and neighboring areas).

I research of the possession document of Kyoto Historical Science Association, Kyoto teacher's union and Tango district teacher's union, and hearing of the person concerned and knew situation of 1950's. I make lists of possession document with study cooperators, and restore a picture-story show "Gion matsuri" (1952) and stage it. I analyze the background and influence with these documents.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：日本近代史学史・日本古代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本近現代史・京都地域・教育史・データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の対象となる国民的歴史学運動は、マルクス主義を理論的基盤とする歴史研

究者・教員・学生らが、研究成果の一般国民への普及を目的として展開したものであり、日常生活の場の歴史を地域住民と共に調べ

て教材化するなどの活動が行われた。この運動は地域史に対する住民の関心や意識を高める一方で、実証的研究を軽視し、歴史学の政治的実用主義化を進めたとの批判が高まり、1953年頃から急速に終息し、以後忘れられていくとの評価が一般的である。だがこの総括は運動を主導した研究者・学生の著作や回顧談に基づくものであり、参加した一般の人々にとってこの運動がどういう意味をもっていたのかについては、未だ十分な検討が行われていない。

(2) 研究者や学生等が運動を離れた後も、地域史を自主的に学ぶサークルが各地に作られ、学校教育において地域民衆の歴史が教材となり、文化財保護運動への取り組みが進むなど、一般国民の歴史意識を身近な地域に根ざしたものとする上で、この運動が果たした一定の役割は軽視できない。関東では近年、主に教育史・文化史の分野で、身近な社会問題や体験を作文する教育実践から生まれた生活記録や、地域の歴史を学ぶサークル活動等の再検討が進みつつあるが、関西とくに京都においてはこれまで基礎的な研究がほとんどなかった。

原因は、国民的歴史学運動の性急で未熟な政治主義への批判をいち早く行った研究者が、運動衰退以後に京都を活動拠点とする日本史研究会・京都民科歴史部会などを主導したこと、当時の活動内容を語る資料そのものが少なく、具体的な検討が難しかったこと等である。教育学等でその一部を利用した研究が行われる場合でも、当該資料を含む史料群の全体構成や史料性格の検討がほとんど行われていないため、これらを地域史の研究に充分生かせていない。

(3) 研究代表者は、京阪神の大学非常勤講師・院生など若手研究者とともに2005年3月から京都府下で資料調査を開始した。その結果、京都市の京都教育センター(京都教職員組合)、京丹後市峰山の丹後教育会館(奥丹後地方教職員組合)に、敗戦直後から現在に至る多数の地域教育関係資料(組合の財政・活動記録等公文書、各種教育雑誌・パンフレット・ポスター類、議会・選挙運動・裁判記録、学級新聞や作文集・副読本、教育実践関係のメモ・書簡類など)が所蔵されており、そのなかに国民的歴史学運動と関連する興味深い資料が多く含まれていることを確認した。これらの存在は少数の研究者・教育関係者に知られており、『京教組四〇年史』(京都教職員組合、1990年)編纂時にその一部が用いられたが、目録も存在せず史料群としての全体像は未だ不明である。維持のための財源・人手が不足し、適切な資料保存体制の構築が急務となっていることも明らかと

なった。また、京都に拠点を置き戦後歴史学を牽引してきた京都民科歴史部会の所蔵資料についても、これまで基本的な調査が行われていないことが予備調査で判明した。

2. 研究の目的

(1) 京都地域における国民的歴史学運動の展開過程の検討を通じて、当地域の戦後史を知る上で基礎となる史料情報を発掘・整理し、同時期に広く見られた他の文化・教育運動との相互関連について考察する。こうした作業を通じ、この運動を様々な立場の人々にとっての「文化的経験」として定義し直す。

(2) 戦後の京都における日本史研究がどのような問題意識に基づいて行われてきたか、その推移を史学的見地から跡づけるとともに、地域住民が関与した多様な文化運動についての資料を精査し、とくに高齢化が進む当事者の生の声を早急に記録・資料化する。

3. 研究の方法

(1) 日本史研究会・京都民科歴史部会等の学会所蔵資料、京都教職員組合・奥丹後地方教職員組合や地方史サークル等の資料の所在を確認し、調査して目録を作成する。同時に、これらの資料の適切な保全・管理方法について、所蔵者に対して具体的な提言を行い、その維持に協力する。

(2) 戦後歴史学・地域教育を担った研究者・教育者や一般市民から、1950年代の京都周辺地域における歴史学研究や教育運動等の実態に関する聞き取り調査を系統的に行い、貴重な証言のデータを記録する。

(3) 調査・研究結果を随時公開するとともに、データベース化し、研究者や地域住民の利用に供する。

(4) 以上の活動を、研究代表者が主催する「戦後歴史学ワーキンググループ」の若手研究者とともに進め、資料調査や研究報告を通じて、京都地域の現代史研究の基礎を構築する。(研究協力者の現所属は以下の通り)

生駒佳也(徳島市立高等学校教諭)
大月英雄(関西学院大学大学院)
後藤真(花園大学教員)
小山俊樹(帝京大学教員)
櫻澤誠(立命館大学非常勤講師)
里井直彦(2007年度まで大阪市立大学大学院生)
白木正俊(京都市琵琶湖疏水記念館)
杉本弘幸(京都市制史編纂助手)
鈴木耕太郎(立命館大学大学院)
高橋明裕(立命館大学非常勤講師)
武知正晃(台湾首府大学教員)
西嶋一泰(立命館大学大学院)

花森重行（もと神戸市外国語大学非常勤講師）

福島在行（広島平和祈念資料館）

藤井祐介（京都大学大学院）

宮本敦恒（京都市上下水道局嘱託）

安岡健一（京都大学大学院）

4. 研究成果

(1) 関連資料の調査・整理

京都の歴史関係学会の資料については、京都民科歴史部会の全所蔵資料目録を完成し（総件数 522 点）主要なものを撮影してデジタルデータ化した。その過程で国民的歴史学運動の代表的な成果として知られる紙芝居『祇園祭』の 35mm スライドフィルム原簿を発見し、これをもとに紙芝居を復元し、京都大学紙芝居研究会の協力を得て市民講演会で上演して好評を博した。この紙芝居は以後、立命館大学の京都学関係の授業や、京都大学と徳島市立高等学校の地域連携授業等でも上演され、地域研究や教育学研究の新たな材料として認知され始めている。

京都教職員組合関係資料については、京都教育センターで計 25 回に及ぶ調査を行い、1950・60 年代を中心に段ボール箱 11 個分の資料の分類整理を行い、総件数 4611 点の詳細な内容目録を作成した。目録では箱毎に通し番号を振り、文書名・年代・資料の作成者・宛先・内容・点数・備考を記した。資料の内容を大別すると、教職員組合の内部資料、旭丘事件に関する資料の 2 種類であり、前者を「京教組資料」、後者を「京教組旭丘資料」と呼び分ける。いずれも敗戦直後から 1960 年代半ばまでに作成された資料である。前者には破防法反対運動・教育二法反対運動の闘争方針などに加えて、教員の生活の実態がわかる福利厚生関係の資料や学級新聞、文集の類も数多く含まれている。また、後者には、旭丘中学校の学級新聞や副読本などがある。これまで教育史・労働運動史の領域では、1950 年代の地域教育についておもに教職員組合内部の論理を中心に叙述される傾向がみられたが、本資料には教員・生徒・保護者など様々な立場の人々からみた地域教育の多様な側面が表れており、成果報告書掲載の生駒・里井両論文はまさにこれを活かした最新の成果である。

丹後教育会館所蔵資料については、年 2 回のペースで一泊調査を行い、目録を作成した。この資料は調査開始当初から所蔵先移転にともなう廃棄の可能性が高く、所蔵者である奥丹後地方教職員組合からの依頼を受けて寄贈先を探し、最終的に近接する京丹後市の市史編さん室への全点一括寄贈に漕ぎ着けた。これにより文書資料として適切な管理のもとでの長期的保管が実現した。資料は文書箱 72 箱分あり、総数は 5000 点を越えるが、

いまだ調査が不十分な状態であり、今回はその内の 39 箱分（総件数 2370 点）の仮目録を作成し、成果報告書に掲載した。箱毎に通し番号を振り、文書名・年代・資料の作成者・宛先・内容・点数・備考（形状上の特徴など）の項目を記す。今後も残る資料の目録化を続け、作業の進展にあわせて補正していく予定である。

個人所蔵資料については、池田富氏・東上高志氏・故三品彰英氏・堀江英次氏の資料を調査した。池田氏からは日本の歴史を素材とした小学校の教育放送用ドラマ台本、東上氏からは紙芝居『祇園祭』の別本、三品氏ご遺族からは第三高等学校～海軍機関学校時代の写真多数や大谷大学等での教育資料、所蔵漢籍などの提供・寄託を受け、うち三品資料の一部は許可を得た上で立命館大学図書館に寄贈した。これらについても今後目録を作成し、然るべき公的機関へ移管する予定である。

他地域の国民的歴史学運動に関する文献史料の調査を、東京（国立国会図書館）・熊本（県立図書館・大学図書館）等で行った。

(2) 聴き取り調査・座談会など

池田富・井ヶ田良治・市原寿文・寺島洋之助・東上高志・藤間生大・松尾尊兌・山本正行・脇田修の諸氏に戦後の歴史学会や教育運動の実態に関するインタビューを実施し、堀江保次氏（ほか奥丹後地方教職員組合員）の座談会を開催した。また岩井忠熊氏をコメントーターに、大門正克編『昭和史論争を問う』（日本経済評論社、2006 年）の著者和田悠氏を招聘して書評会を開いた。

(3) 成果報告書（冊子）の作成

本研究の成果を集成した成果報告書を作成・刊行し、関係者・機関に配布した。四部構成で、内容は以下の通り。

第 部 資料の概略（ページ：1 - 2）

第 部 資料目録（ページ：3 - 224）

(1) 京都民科歴史部会所蔵資料

(2) 京都教職員組合所蔵資料

(3) 奥丹後地方教職員組合所蔵資料

第 部 論攷編

(1) 田中聡「紙芝居「祇園祭」の再発見」（ページ：226 - 240）

(2) 花森重行「国民的歴史学運動期における政治の多様性 - 民科京都支部歴史部会の紙芝居『祇園祭』に即して -」（ページ：241 - 263）

(3) 生駒佳也「1950 年代における同和教育運動の展開と地域社会の関わり - 京都市田中地区を中心に -」（ページ：264 - 293）

(4) 里井直彦「戦後京都における旭丘事件」（ページ：294 - 320）

第 部 資料編 (附録 CD-ROM)

資料写真、調査状況や講演会の写真、
第 部資料目録データ、第 部図表の
一部を掲載。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌・図書論文] (計 2 件)

著者名 : 花森重行、論文表題 : 国民的歴史学運動期における政治の多様性 - 民科京都支部歴史部会の紙芝居『祇園祭』に即して -、雑誌名 : 新しい歴史学のために、査読 : 有、巻 : 275、発行年 : 2009 年、ページ : 45-66

著者名 : 田中聡、論文表題 : 三品彰英の神話研究 - その出発点、図書名 : 近江の文化と伝統、査読 : 無、発行年 : 2010 年、ページ : 26-42

[学会発表] (計 4 件)

発表者名 : 生駒佳也、発表標題 : 戦後、京都における教育をめぐる状況 - 教員組合運動の位置づけをめぐる -、学会名等 : 京都教育センター公開研究会、発表年月日 : 2009 年 9 月 13 日、発表場所 : 京都市

発表者名 : 櫻澤誠、発表標題 : 戦後沖縄における教職員運動 地域における教職員の役割、学会名等 : 京都教育センター公開研究会、発表年月日 : 2009 年 9 月 13 日、発表場所 : 京都市

発表者名 : 生駒佳也、発表標題 : 戦後京都における教育運動の政治的位置、学会名等 : 京都教育センター研究集会、発表年月日 : 2009 年 1 月 24 日、発表場所 : 京都市

発表者名 : 田中聡、発表標題 : 紙芝居『祇園祭』の再発見、学会名等 : 日本史研究会・京都民科歴史部会共催市民講演会、発表年月日 : 2008 年 7 月 13 日、発表場所 : 京都市

[図書] (計 1 件)

著者名 : 田中聡、書名 : 国民的歴史学運動の京都地域における展開過程に関する研究 (成果報告書)、発行年 : 2011 年、総ページ数 320

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

田中 聡 (TANAKA SATOSHI)

立命館大学・文学部・講師

研究者番号 : 1 0 3 6 8 0 1 1